

平成 28 年度「中小規模病院における看護師の現任教育の現状」
に関する調査報告

平成 29 年 2 月 14 日
公益社団法人愛知県看護協会 看護師職能委員会 I

I. 目的

中小規模病院における看護師の現任教育の現状に関する調査を実施し、現任教育の現状とクリニカルラダー活用状況とその課題を明らかにし、今後の看護師職能委員会 I の取り組みの参考にする。

II. 用語の定義

現任教育：免許を持って病院に勤めている看護師・准看護師を対象とした、専門能力向上を目的とした教育研修

クリニカルラダー：看護師の看護実践に必要な実践能力を段階的に表現したもの

III. 調査方法

調査期間 平成 28 年 8 月 1 日～8 月 31 日

調査対象 県内 200 床未満病院 214 病院

調査詳細 調査対象病院に自作式調査用紙（A4 で 3 頁、回答所要時間 15 分予定）を送付し、平成 28 年 7 月 1 日の状況で回答し返送することを依頼した。調査内容は、施設の概要、看護職の採用状況、現任教育の現状、クリニカルラダーの現状、日本看護協会のクリニカルラダー、現任教育およびクリニカルラダーの活用に関する課題である。

倫理的配慮 質問紙調査は無記名とし、得られたデータは施設や個人を特定できないように処理し、プライバシー保護・守秘義務を徹底する。調査結果の公表も説明し、回答の返送をもって了解されたと判断する。

IV. 結果および考察

調査票の回収数は 89 病院であり、回収率は 41.6%であった。以下に、調査内容に沿って順に述べる。

1. 所属施設の概要

今回回答された中小規模病院（以下、病院）の設置主体は、「医療法人」が 66 病院（74.2%）ともっとも多かった。病院の病床数は、「50 床～99 床」が 31 病院（34.8%）、「100 床～149 床」が 27 病院（30.3%）であった。100 床未満が 47.2%、100 床以上が 52.8%であることから、この 2 分割で傾向をみる事が可能であると考えられる。

2. 看護職の概要

1) 施設看護師数

施設看護師数は、病床規模により順次増加している。常勤准看護師数が「100 床から 149 床まで」の病院においてもっとも多い背景は、不明である。

表1 施設規模別看護師数（人）

	常勤看護師	常勤准看護師	非常勤看護師	非常勤准看護師
20床から49床まで	13.9	5.8	7.0	1.7
50床から99床まで	34.2	7.0	8.0	2.5
100床から149床まで	55.3	10.6	10.1	3.2
150床から199床まで	91.2	8.8	14.6	4.0
全 体	50.6	8.4	10.0	3.0

2) 平成27年度採用看護師数

常勤看護師の採用は、「150床～199床」が平均11.1人で、病床規模に応じた数値を示している。常勤看護師の新卒者も「100床～149床」が平均2.1人、「150床～199床」が平均5.3人と、病床規模に応じた増加である。一方、非常勤での新卒者採用は、看護師・准看護師とも平均0～0.1人と極めて少ないことから、新卒看護師は常勤採用して育成していると考えられる。

3. 現任教育

【クロス表分析の視点】

病床数の規模を「99床以下」と「100床以上」で分けて、各項目の傾向をみる。また、「20床～49床」を併せて取り上げ、「99床以下」とは異なる傾向があれば検討する。

1) 現任教育を企画担当する看護師責任者

「看護師責任者の存在」は「99床以下」と「100床以上」とともに「いる」病院が高い。しかし、「20床～49床」では「いない」病院が63%を超えており、小規模病院での企画担当者の不在が明らかになった。これは後述する自施設の現任教育での課題の中で、「企画運営を担う人材がない」が52.4%と過半数を超えたことに関係すると考えられる。

表2 現任教育を企画担当する看護師責任者の有無

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
いる	28	66.7%	40	85.1%	68	4	36.4%
いない	14	33.3%	7	14.9%	21	7	63.6%

2) 現任教育を企画担当する組織的な委員会

「組織的な委員会の存在」は「100床以上」では「ある」が80%を超えている。しかし、「99床以下」では「ある」が54.8%にすぎず、特に「20床～49床」では「ない」が72.7%と逆転しており、先の1)の結果同様小規模病院での委員会の不在も明らかになった。

表3 現任教育を企画担当する組織的な委員会の有無

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
ある	23	54.8%	38	80.9%	61	3	27.3%
ない	19	45.2%	9	19.1%	28	8	72.7%

3) 教育研修の年間計画の立案

「研修の年間計画を立案している」は「99床以下」、「100床以上」共に70%を超えている。しかし、「20床～49床」は54.6%であることは、責任者や組織的な委員会の不在が関連していること、一方その状況でも管理者が自ら年間計画を立案することで、過半数を超える結果となっているのではないかと考えられる。

表4 教育研修の年間計画立案の有無

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
立案している	31	73.8%	39	83.0%	70	6	54.5%
立案していない	10	23.8%	7	14.9%	17	4	36.4%
無回答	1	2.4%	1	2.1%	2	1	9.1%

4) 平成27年度に施設内で実施した研修（院内研修）

「新規採用者対象研修・オリエンテーション等」「看護専門知識技術に関する研修」「医療安全、感染防止、褥瘡等医療報酬に関する研修」は、70%以上実施されている。「20床～49床」での「看護管理者を対象とした研修」は0件であるが、これは対象者がいないことも考えられる。

「経年別研修」は「99床以下」が低く、特に「20床～49床」では1件のみである。企画担当の看護師責任者や委員会の存在が「いない」「ない」という回答結果が、院内研修の開催を困難にしていること、後述するラダーの導入が低いことも関連していると考えられる。

表5 平成27年度に施設内で実施した研修（複数回答）

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
新規採用者対象研修・オリエンテーション等	30	71.4%	42	89.4%	72	8	72.7%
経年別研修	11	26.2%	26	55.3%	37	1	9.1%
看護管理者を対象とした研修	12	28.6%	22	46.8%	34	0	0.0%
看護専門知識技術に関する研修	30	71.4%	35	74.5%	65	6	54.5%
医療安全、感染防止、褥瘡等医療報酬に関する研修	41	97.6%	45	95.7%	86	10	90.9%
その他	5	11.9%	10	21.3%	15	1	9.1%

5) 平成27年度に活用した院外研修

「看護専門知識技術に関する研修」「医療安全、感染防止、褥瘡等医療報酬に関する研修」に参加している病院は78%をいずれも超えている。これは、病院の規模を問わない傾向である。「20床～49床」では院内研修同様、「経年別研修」が院外研修でも低い。

一方、「看護管理者を対象とした研修」は、院内研修・院外研修ともに「100床以上」が

高い。院内研修は開催しているが、院外研修にもその機会を積極的に求めていると考えられる。

表6 平成27年度に活用した院外研修（複数回答）

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
新規採用者対象研修・オリエンテーション等	12	28.6%	13	27.7%	25	3	27.3%
経年別研修	10	23.8%	19	40.4%	29	2	18.2%
看護管理者を対象とした研修	24	57.1%	35	74.5%	59	4	36.4%
看護専門知識技術に関する研修	35	83.3%	37	78.7%	72	9	81.8%
医療安全、感染防止、褥瘡等医療報酬に関する研修	36	85.7%	40	85.1%	76	9	81.8%
その他	3	7.1%	4	8.5%	7	1	9.1%
無回答	2	4.8%	0	0.0%	2	1	9.1%

6) 院外研修の主催

「看護協会主催」「職能団体主催」の研修に出席することは、「99床以下」「100床以上」の病院いずれも78%を超えている。

「公的機関主催」の研修にも過半数の病院が出席しているが、「100床以上」は80%を超えてやや高く、広く研修機会を求めていると考えられる。

表7 院外研修の主催（複数回答）

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
看護協会が主催する研修	33	78.6%	40	85.1%	73	7	63.6%
看護協会以外の職能団体（医師会等）やその他医療系組織の主催する研修	33	78.6%	37	78.7%	70	7	63.6%
愛知県や名古屋市など公的機関が主催する研修	27	64.3%	38	80.9%	65	6	54.5%
企業・製薬会社等が主催する研修	25	59.5%	25	53.2%	50	7	63.6%
その他	2	4.8%	1	2.1%	3	2	18.2%
無回答	2	4.8%	1	2.1%	3	1	9.1%

7) 現任教育での課題

「教育研修の企画運営を担う人材がない」「講師を担う人材がない」は「99床以下」の病院ではいずれも50%を超え、「20床～49床」では70%を超えており、人材不足の課題が現任教育に多大な影響を及ぼしている。

「教育研修を行う時間がない」は「99床以下」で50%を超えるのが特異的である。

「予算がない」「開催しても参加者が少ない」は「99床以下」「100床以上」でいずれも20%を超えている。ただし、「幹部の理解が乏しい」「研修を行う場所がない」については病院の規模によって異なるが、比率としてはいずれも15%以下と低い。

表8 自施設の現任教育での課題（複数回答）

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
教育研修の企画運営を担う人材がない	22	52.4%	17	36.2%	39	8	72.7%
講師を担う人材がない	23	54.8%	27	57.4%	50	8	72.7%
教育研修の予算がない	9	21.4%	11	23.4%	20	3	27.3%
教育研修に関する幹部の理解が乏しい	3	7.1%	7	14.9%	10	0	0.0%
教育研修を行う場所がない	5	11.9%	2	4.3%	7	2	18.2%
教育研修を行う時間がない	21	50.0%	13	27.7%	34	5	45.5%
教育研修を開催しても参加者が少ない	10	23.8%	17	36.2%	27	1	9.1%
その他	7	16.7%	6	12.8%	13	0	0.0%
無回答	3	7.1%	2	4.3%	5	0	0.0%

4. クリニカルラダー

1) 自施設のクリニカルラダー

「ある」は「99床以下」で33%、「100床以上」で55%程度である。「ない」は「99床以下」で66.7%と高く、特に「20床～49床」では11病院すべてが「ない」であり、このことが、院内研修の経年別研修の実施が低いことに影響していると考えられる。

表9 自施設のクリニカルラダーの有無

選択項目	20床～99床 (N=42)		100床～199床 (N=47)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
ある	14	33.3%	26	55.3%	40	0	0.0%
ない	28	66.7%	21	44.7%	49	11	100.0%

2) 自施設のクリニカルラダーがある施設

(1) 運用の実際

「クリニカルラダーがあり運用している」は「99床以下」35%、一方「100床以上」61%であり、「クリニカルラダーがあるが十分運用できていない」は「99床以下」42%、「100床以上」34%であった。「まったく運用していない」も含め、「99床以下」にはクリニカルラダーの運用に課題があると考えられる。

表 10 「クリニカルラダーがある」施設の運用の実際

選択項目	20床～99床 (N=14)		100床～199床 (N=26)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
クリニカルラダーがあり運用している	5	35.7%	16	61.5%	21	0	0.0%
クリニカルラダーがあるが十分運用できていない	6	42.9%	9	34.6%	15	0	0.0%
クリニカルラダーがあるが全く運用していない	1	7.1%	0	0.0%	1	0	0.0%
その他	1	7.1%	0	0.0%	1	0	0.0%

(2) 対象者

「100床以上」では「常勤・非常勤問わずすべての看護師・准看護師に適応している」がもっとも多い。「99床以下」は特徴がなく、「常勤看護師と非常勤看護師に適応している」がやや少ない。

表 11 「クリニカルラダーがある」施設の対象者

選択項目	20床～99床 (N=14)		100床～199床 (N=26)		回答数	20床～49床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
常勤看護師に適応している	4	28.6%	6	23.1%	10	0	0.0%
常勤看護師と常勤准看護師に適応している	4	28.6%	4	15.4%	8	0	0.0%
常勤看護師と非常勤看護師に適応している	1	7.1%	3	11.5%	4	0	0.0%
常勤・非常勤を問わずすべての看護師・准看護師に適応している	4	28.6%	11	42.3%	15	0	0.0%
その他	1	7.1%	1	3.8%	2	0	0.0%

3) 自施設のクリニカルラダーがない施設でのクリニカルラダー作成

「クリニカルラダーの作成を検討中である」のは「99床以下」35%、「100床以上」42%でいずれも3分の1を超えている。一方で、「必要性は感じるが作成する予定はない」という施設も、規模を問わず3分の1程度ある。特に「20床～49床」では50%を超えている。さらに、「必要かどうかわからない」という回答が、「99床以下」で25%あり、小規模病院におけるクリニカルラダーの導入は、その内容についての周知と作成への援助が必要ではないかと考えられる。

4) 「ジェネラリストのための標準クリニカルラダー（平成14年度）」の既知

「ジェネラリストのための標準クリニカルラダー（平成14年度）」を「知っている」は規模を問わずいずれも60%台にとどまっている。

表 12 「ジェネラリストのための標準クリニカルラダー（平成 14 年度）」の既知

選択項目	20 床～99 床 (N=42)		100 床～199 床 (N=47)		回答数	20 床～49 床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
知っている	28	66.7%	29	61.7%	57	7	63.6%
知らない	14	33.3%	16	34.0%	30	4	36.4%
無回答	0	0.0%	2	4.3%	2	0	0.0%

5) 「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」の既知

「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」を「知っている」を回答した施設は、「99 床以下」では 64%、「100 床以上」では 76%である。特に「20 床～49 床」では 50%台と低く、クリニカルラダーの導入をしていないことから新しいクリニカルラダーに関する関心も低いと考えられる。

表 13 「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」の既知

選択項目	20 床～99 床 (N=42)		100 床～199 床 (N=47)		回答数	20 床～49 床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
知っている	27	64.3%	36	76.6%	63	6	54.5%
知らない	14	33.3%	10	21.3%	24	5	45.5%
無回答	1	2.4%	1	2.1%	2	0	0.0%

6) 「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」の活用

「何らかの形で参考にしたい」が「99 床以下」「100 床以上」とも 50%以上あり、「100 床以上」では 36%が「ぜひ活用したい」と回答している。また、現在クリニカルラダーを導入していない「20 床～49 床」でも、80%を超えて回答している。一方で、「必要性を感じない」と回答した施設が、「99 床以下」で複数あり、小規模病院への対応に留意が必要であると考えられる。

表 14 「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」の活用

選択項目	20 床～99 床 (N=42)		100 床～199 床 (N=47)		回答数	20 床～49 床 (再掲)	
	人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比
ぜひ活用したい	5	11.9%	17	36.2%	22	1	9.1%
何らかの形で参考にしたい	33	78.6%	26	55.3%	59	9	81.8%
自施設のものがあるので活用することは考えていない	0	0.0%	2	4.3%	2	0	0.0%
クリニカルラダーの必要性を感じない	4	9.5%	0	0.0%	4	1	9.1%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	4.3%	2	0	0.0%

5. 現任教育の現状とクリニカルラダー運用の課題

自由記載をキーワードでまとめ、記述すると以下のようになる。

1) 現任教育で工夫していること

「記載あり」は合計 64 病院であり、「99 床以下」28 病院、「100 床以上」36 病院の記述は、「教育体制」「研修企画」「研修支援」のキーワードにまとめられる。

そして「教育体制」では①ラダー導入、②教育委員会の設置、③プリセプター制 を工夫している。「研修企画」では①研修時間の確保、②研修内容の工夫、③施設ニーズ、④現場ニーズ、⑤伝達講習、⑥OJT 充実 を工夫している。「研修支援」では①IT 活用、②院外研修への出張、③他施設の人材活用、④院外研修の推奨 を工夫している。

2) 自施設の看護職の現任教育で困っていること

「記載あり」は合計 64 病院であり、「99 床以下」30 病院、「100 床以上」39 病院の記述は、「モチベーションの向上」「背景による多彩な教育ニーズ」「主任・看護師長の教育」「研修評価と効果」にまとめられる。

「モチベーションの向上」は①積極的に参加を希望する者と希望しない者をやる気にさせること、②日常業務に追われ一人一人の知識向上に対する意識が低い、③スタッフの平均年齢が高く看護教育の必要性を感じず、教育活動には消極的な人が多い に困っている。「背景による多彩な教育ニーズ」は、①中途採用者がほとんどであり、背景がばらつき教育の内容を画一的に行えないこと に困っている。「主任・看護師長の教育」では①レベルⅢ以上の研修があまり企画できずどのように教育したらよいか に、「研修評価と効果」では①研修の内容が現場に活かされているか不明である、②クリニカルラダーがないため、個々のキャリア発達を段階的に支援できない に困っている。

3) 自施設におけるクリニカルラダー運用の課題

「記載あり」は合計 59 病院であり、「99 床以下」27 病院、「100 床以上」32 病院の記述は、「周知と体制づくり」「指導層の育成」「対象者への対応の難しさ」「評価の難しさ」「成果・活用」にまとめられる。

「周知と体制づくり」では①ラダーの目的構成などラダーを知らない、②管理者の無理解、③組織づくりをする が具体的課題としてあげられる。「指導層の育成」では①リーダー・推進者の不在不足②講師・指導者の不在不足が、「対象者への対応の難しさ」では①中途採用者の能力差・ラダーⅠから始めることへの違和感、②消極的な／理解のないスタッフへの対応の困難感、③より高いレベルへの指導の渴望 が具体的課題としてあげられる。「評価の難しさ」では①評価システム・項目のなさ／ばらつき、②他者評価への苦手意識 に、「成果・活用」では①人事考課・目標管理との関連づけ、②現行ラダーから新ラダーへの移行への疑問 が具体的課題としてあげられる。

V. 今後の課題

中小規模病院を対象にしたアンケート調査の結果、現任教育の円滑な運用については以下のような事柄が整う必要があるとわかる。

まず「体制づくり(組織化、必要性の周知)」であり、それに関連するのが「指導者(主任師長、指導者、企画責任者)育成」である。また、現任教育の「企画」には時間・場所・内容(高一低への対応、多様なメニューへの要望)、受講者のニーズ(把握、受講者の違い)が関与し、「実施」「評価」「効果活用」という過程においても課題を有している。

中小規模病院では、クリニカルラダーを含めた現任教育の必要性への周知不足や認識不

足に始まる様々な制約や対応すべき課題が多くあるが、ここでは「講師不足」「院外研修の不足」「中小規模病院への支援」を取り上げる。

「講師不足」では、自施設では研修の講師を担える人材が不足していることから、例えば①認定看護師/専門看護師の派遣を支援する、②看護協会への講師登録制などを検討するといった人材と企画への補助を支援することである。「院外研修の不足」では、中小規模病院でも院外研修の支援をする施設は多いが、中小規模病院の実情にも対応した受講できる研修が少ないのが実情である。そこで、教育委員会とも協同して①中小病院を対象にした研修を企画する、②施設ニーズにあった研修の企画や希望の多い医療安全、院内感染などの研修を支援する、③二次医療圏の連携を強化して、中核病院の研修参加を支援すること等に取り組むことである。さらに「中小規模病院への支援」では、①中小病院の交流会を開催する、②研修時間、評価など研修企画のアイデアを共有するように機会を設けるなどである。

すべてを県看護協会で支援することは難しいが、病院の7割を占めるという200床未満の病院で働く看護師の看護実践能力の向上やその支援を進めることは、地域包括ケアシステムを進めていくうえでも、看護力の底上げを進めるうえでも、非常に重要な課題である。そこで活躍する人材を育成することはシステムの基盤づくりであることから、それを効率的に着実に進めていくことは大切であり、その足がかりの一つとしてクリニカルラダー（日本看護協会版）の活用も視野に入れていく。

今後明らかになった課題について、段階的に計画し対応することが必要であると考えている。看護師職能委員会をはじめ関連委員会と協働し、事業計画に組み入れていきたい。

最後に、今回の調査にご協力いただいた中小規模病院の管理者の皆様に、深く感謝いたします。

5. 27年度に活用した院外研修についてお尋ねします。活用した研修すべてに○をつけてください。
- 1) 新規採用者対象研修・オリエンテーション等
 - 2) 経年別研修
 - 3) 看護管理者を対象とした研修
 - 4) 看護専門知識技術に関する研修
 - 5) 医療安全、感染防止、褥瘡等診療報酬に関する研修
 - 6) その他 ()
6. 問5で活用した院外研修の主催はどこですか。該当するものすべてに○をつけてください。
- 1) 看護協会が主催する研修
 - 2) 看護協会以外の職能団体（医師会等）やその他医療系組織の主催する研修
 - 3) 愛知県や名古屋市など公的機関が主催する研修
 - 4) 企業・製薬会社等が主催する研修
 - 5) その他 ()
7. 自施設の現任教育で課題であると思うことすべてに○をつけてください。
- 1) 教育研修の企画運営を担う人材がない
 - 2) 講師を担う人材がない
 - 3) 教育研修の予算がない
 - 4) 教育研修に関する幹部の理解が乏しい
 - 5) 教育研修を行う場所がない
 - 6) 教育研修を行う時間がない
 - 7) 教育研修を開催しても参加者が少ない
 - 8) その他 ()

IV. クリニカルラダー(看護師の看護実践に必要な実践能力を段階的に表現したもの)についてお尋ねします。

1. 自施設のクリニカルラダーの有無についてお尋ねします。番号に○をつけてください。
- 1) ある →2へ
 - 2) ない →3へ
2. 問1で「1)ある」と回答された方にお尋ねします。
- (1) クリニカルラダーの運用の実際についてお尋ねします。該当するもの一つに○をつけてください。
- ① クリニカルラダーがあり運用している
 - ② クリニカルラダーがあるが十分運用できていない
 - ③ クリニカルラダーがあるが全く運用していない
 - ④ その他 ()
- (2) クリニカルラダーの対象者についてお尋ねします。該当するもの一つに○をつけてください。
- ① 常勤看護師に適応している
 - ② 常勤看護師と常勤准看護師に適応している
 - ③ 常勤看護師と非常勤看護師に適応している

